

感染症情報 11月19日～25日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1029例(堺市	58例)
②溶連菌感染症	448例(堺市	64例)
③咽頭結膜熱	137例(堺市	15例)
④手足口病	100例(堺市	8例)
⑤RSウイルス感染症	97例(堺市	5例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	173例(堺市	49例)
---------	---------	------

が報告された。

感染症報告数は前週比3.9%減の2,121件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病、RSウイルス感染症の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比2%減、堺市で前週比14%増であった。溶連菌感染症が府下では前週より4%減、堺市で前週91例→64例は30%減であった。咽頭結膜熱は府下で前週比9%増、堺市で6例→15例であった。手足口病が府下で前週より19%減、堺市では前週5例→今回8例であった。RSウイルス感染症は府下で前週より12%減、堺市で9例→5例であった。なお、報告第7位の伝染性紅斑(りんご病)が府下で19%増と増加中。

インフルエンザは府下で前週121例→今回173例であった(43%増、定点当たりの報告数は0.6)。堺市では前週23例→今回49例と再び増加した(113%増、定点当たり1.7)。

麻疹の報告が府下で5例あり、また流行が懸念される。風疹が府下で前週5例→今回10例あった(堺市はなし)。